

水戸天狗党 ゆかりの地をめぐる

現在放送中のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公・渋沢栄一は、近代日本経済の父と言われ、約500の企業の育成に携わりました。【第一国立銀行（現みずほ銀行）や日本鉄道株式会社（現JR東日本）、大阪紡績株式会社（現東洋紡株式会社）など】

そんな渋沢は、敦賀ゆかりの水戸天狗党と大変関わりが深く、実際に敦賀にも赴き、水戸天狗党の埋葬地も訪れています。渋沢栄一を通して、市内の水戸天狗党ゆかりの地を巡ってみませんか。

渋沢栄一と水戸天狗党

青年期の渋沢は、尊王攘夷思想に傾倒し、後に水戸天狗党として挙兵する藤田小四郎と江戸で出会い、意見を交わしています。



渋沢 栄一氏

文久3年（1863）、渋沢は高崎城乗っ取りと横浜焼き討ちを計画しますが、議論の末に中止を決定し

ます。そして計画の露見を恐れ、生家を出て京都で一橋家へ仕官する道を選びます。

一方、翌年、藤田小四郎は水戸において天狗党を率いて、武力による攘夷を目指し、挙兵します。

その後、水戸天狗党は幕府と水戸藩の保守派に追い詰められ、武田耕雲斎を総大将として水戸出身の一橋慶喜を頼り京都を目指しますが、敦賀の地で降伏しました。

渋沢は一橋家臣として追討軍に参加し、水戸天狗党と対峙していましたが、直接交戦することはありませんでした。同じく攘夷を目指した両者の命運は大きく異なる結果となりました。

渋沢栄一と水戸天狗党その後

明治17年（1884）、渋沢は第一国立銀行頭取として各支店の営業状況の査察途中で敦賀に投宿し、地元行員や商人などの案内で松原に赴き、水戸天狗党の埋葬地にも訪れています。

渋沢栄一の日記を写した「甲申京撰巡回日記」の明治17年（1884）6月6日条には、以下のように記されています。

六月六日晴、午前六時の汽車に駕して敦賀に抵る、柳ヶ瀬隧道は此間であり、八時敦賀に達す、米屋某に投宿す
三井銀行分店石田某中村室山等諸子来訪、相携ふて地方の勝景を遊覧す、金ヶ崎神社観音堂に詣し、金ヶ崎駐車場に添ふたる波止場を一覧す、午後再三諸子の誘引に依て松原に至る、**松原は港内の一勝地なり武田伊賀某他数士埋骨の地なるを以て、水戸の人士碑を建て其事を記す**、原頭海に接する所に於て開筵小酌し、網して魚を得、煮灸以て酒を侑む頗る清興なり、蓋し地方諸子余が来遊を慰むる為なり、午後七時帰宿す、此夜諸子来会談話す

デジタル版『渋沢栄一伝記資料』引用 (<https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryō/digital/main/>)

【現代語訳】

6月6日晴れ、午前6時の汽車に乗って敦賀に至った。柳ヶ瀬トンネルはこの間にある。8時に敦賀に到着し、宿に投宿した。
三井銀行敦賀支店の石田氏や敦賀の商人の中村氏らの訪問があったので、一緒に敦賀の景色を遊覧した。金ヶ崎神社観音堂（金前寺観音堂か？）を参拝し、金ヶ崎駅の波止場を一覧した。午後、再度彼らの誘いで松原に行った。**松原は港内の一勝地である。また、武田耕雲斎らを埋葬した地があり、水戸の有志者が碑を建ててその経緯を記している。**その後、松原の海に接する場所で宴会を開いた。網で魚を採り、煮たり炙ったりして酒を勧めてきた。大いに風雅な宴であった。このような良い宴になったのは敦賀の人々が訪問した私を労ってくれたおかげだ。午後7時、宿へ帰る。この夜、様々な方が来たので意見を交換した。

ほんしょうじ 本勝寺 (元町) ・ほんみょうじ 本妙寺 (元町) ・じょうおんじ 長遠寺 (元町)

【本勝寺】弘仁元年（810）創建の真言宗寺院を応永33年（1426）に日隆上人が法華宗に改宗
【本妙寺】永和2年（1376）創立、開山は日敬
【長遠寺】単立の寺院
降伏した水戸天狗党は、3か寺に収容されます。本勝寺には武田耕雲斎や藤田小四郎ら387人が、本妙寺には武田耕雲斎の次男である武田魁介ら346人が、そして長遠寺には90人が収容されました。3か寺での待遇は大変手厚いものでした。



たけだこうらんさいほんじんあと 武田耕雲斎本陣跡 (新保陣屋) (新保)

元治元年（1864）12月11日、水戸天狗党は木の芽峠を越えて、加賀藩と対峙。交戦を望まない天狗党が加賀藩と交渉を重ねたのが、この本陣跡の建物です。当時問屋を営んでいた塚谷家の屋敷の一部で、小規模ながら書院造りとなっており、門・式台・下段の間・上段の間を備え、式台の柱上の三ツ斗の組み物が特徴的な建物となっています。



らいこうじ 来迎寺 (松島町2丁目)

元中4年（1387）、国阿上人により開祖の時宗の寺院。この来迎寺の西側に位置する来迎寺野で、元治2年（1865）2月に武田耕雲斎以下353人が斬首されました。首切りの太刀役に福井・小浜・彦根の各藩が申し付けられましたが、福井藩は松平春嶽の配慮から「浪士の賊徒扱いを好まず」と太刀役を断り、大半が帰国しました。



えいかくじ 永覚寺 (金ヶ崎町)

浄土真宗の寺院。幕府は水戸天狗党を荷蔵に収容した後、元治2年（1865）2月1日に永覚寺に仮白州を設け、取り調べを行いました。その結果、353人が斬首に処せられたほか、残る約470人も遠島・追放・水戸渡し・寺預け・江戸送りとなりました。昭和39年（1964）に水戸浪士処刑百年忌として、「浪人騒動決断白州之址」の石碑が建立されています。

ようごんじ 永厳寺 (金ヶ崎町)

応永20年（1413）、今の栄新町に創建され、慶長12年（1607）、打它宗貞により現在地に移転。水戸天狗党には少年11人が含まれており、不憫に思った永厳寺住職龍道が、仏弟子として引き取ったとされます。

みとれっしきねんかん 水戸烈士記念館 (旧鮭蔵) (松原町)

元治2年（1865）1月29日に敦賀で降伏した水戸天狗党823人を収容した荷蔵16棟のうちの1つ。
加賀藩に降伏した水戸天狗党は敦賀の本勝寺、本妙寺、長遠寺に預けられ、丁重な扱いを受けますが、幕府に身柄が引き渡されると扱いは一変し、この荷蔵に押し込められました。船町（現敦賀市蓬萊町）に所在した荷蔵16棟は戦後、地域住民の運動を受け、昭和29年（1954）に「水戸烈士記念館」として松原神社境内に移築され、令和2年11月に、有形文化財（建造物）として敦賀市指定文化財になりました。



まつばらじんじや 松原神社 (松原町)

明治8年（1875）に創建の水戸天狗党らを祀った神社。明治31年（1898）に前田侯爵家の出資を得て社殿が完成し、大正4年（1915）に現在の位置に移転しました。神社境内の多数の梅の木は水戸天狗党たちにちなみ、姉妹都市である水戸から献木された偕楽園の梅です。

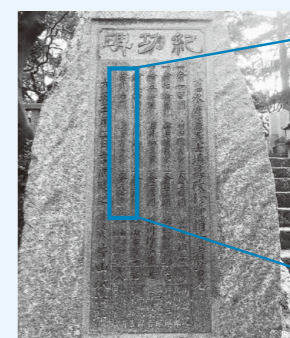


たけだこうらんさいいどうのはか 武田耕雲斎等墓 (松島町2丁目)

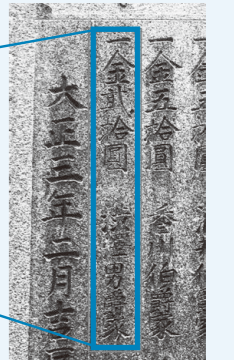
来迎寺野で処刑された武田耕雲斎以下353人が埋葬された墓所で国史跡となっています。大河ドラマの主人公渋沢栄一も明治17年（1884）に訪れています。



■大正3年（1914）の墓地改修時には、「渋澤男爵家」として寄附しています



▲国史跡武田耕雲斎等墓の前に位置する紀功碑



▲渋澤男爵家の文字が刻まれています